

## 三菱商事、洋上風力撤退を発表 中西社長「事業計画実現が困難」

2025/8/27 14:37 (2025/8/27 22:13更新) | 日本経済新聞 電子版

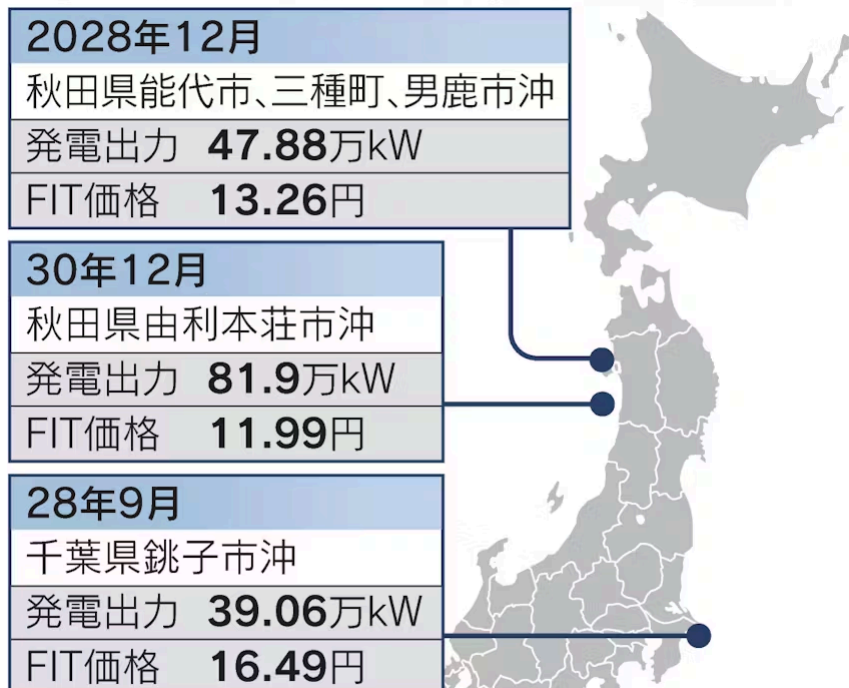
三菱商事と中部電力は27日、千葉県沖と秋田県沖の3海域で進めていた洋上風力発電計画から撤退すると発表した。円安や資材高を受けて計画を再評価し、継続は困難と判断した。国を挙げて進めてきた洋上風力の普及は官民ともに戦略の見直しを迫られる。

三菱商事や中部電力は21年、政府が公募した千葉県銚子市沖、秋田県の能代市・三種町・男鹿市沖、同県由利本荘市沖の3海域で洋上風力発電所の建設・運営事業を落札した。28年以降の完成を目指していたが、世界的な資材費・労務費の高騰などを受け計画の再評価を進めていた。

27日午後に開いた記者会見で三菱商事の中西勝也社長は「地元の皆様にはご期待に添えない結果となったことを申し訳なく思っている」と謝罪した。「当社としても断腸の思いだ」と述べた。

社長としての責任を問われると「本件を通じて日本の脱炭素には貢献できなかったが、他にできることはある」とし、続投する考えを示した。

## 三菱商事・中部電力系が落札した案件



(注)資源エネルギー庁の資料に基づき作成。着床式が対象。  
年月は運転開始時期(計画段階)

撤退を判断した理由について建設費が「当初見込んだ金額の2倍以上の水準」になったことを挙げ「コスト増への対応策が仮に実現しても、売電収入より総支出の方が大きく、事業計画の実現が困難との結論に至った」と釈明した。

三菱商事連合は固定価格買い取り制度（FIT）を基に安値で応札した。政府は電力価格に一定額の補助金を上乗せする新制度の適用や海域の使用期間の延長などの支援策を示したが、中西社長は「何千億円という投資をしてもマイナスのリターンとなる事業を続けるという選択はできないと判断した」と述べた。

三菱商事は25年3月期に洋上風力で524億円の損失を計上していた。今回の撤退判断に伴う損失は大部分を計上済みで、追加の損失が生じる場合でも限定的となる見込みとしている。

共同で計画を進めていた中部電力は27日、26年3月期の連結決算で170億円程度の追加損失を見込むと発表した。グループ会社で電気設備大手のシーテック（名古屋市）が参画していた。「地域の方々をはじめ、関係する皆さまのご期待に応えられない結果となったことを重く受け止める」とコメントした。

三菱商事連合は、政府の公募ルールでおよそ200億円の保証金を積み立てていた。撤退すれば保証金は国に帰属し、結果的に没収となる。三菱商事などは今後国内で予定される公募の第4弾への応札資格を失う。

中西社長は27日夕方に経済産業省と国土交通省を訪れ、両大臣に撤退を報告した。武藤容治経産相は「まだ信じられない気持ちだ。3海域すべてからの撤退は日本の洋上風力導入に遅れをもたらす。非常に遺憾だ」と述べた。三菱商事は同社が集めた海域の調査データの提供を申し出た。

両省は今後、三菱商事連合の事案を検証し、洋上風力発電の公募ルールを見直す。事業者が採算を得やすい仕組みを整備し、国内の洋上風力発電の推進を続ける。千葉や秋田沖の3海域では、検証も踏まえ速やかに再公募を実施する方針だ。

【関連記事】

- ・ [洋上風力撤退、三菱商事連合は保証金200億円没収 公募参加も一時停止](#)
- ・ [三菱商事連合、国内3海域の洋上風力発電撤退 国の再エネ戦略岐路](#)
- ・ [洋上風力、30年超の海域利用可能に 経産省・国交省が案提示](#)
- ・ [鹿島、三菱商事の洋上風力連合を離脱 建設費高騰で採算合わず](#)
- ・ [中部電力、国内3海域の洋上風力発電撤退を発表 170億円損失計上](#)

**BUSINESS DAILY** by NIKKEI

企業の最前線、朝メールで [ご登録はこちら](#) >

会員  
限定

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.